Table with 2 columns: 人間力 (Humanity), 創造力 (Creativity). Rows include 知識 (Knowledge), 思考力 (Thinking), 行動力 (Action), 倫理観 (Ethics), 発想力 (Imagination), 構想力 (Conceptualization), 表現力 (Expression).

Table with 2 columns: 学部のDP (Department DP), 到達目標 (Learning Objectives). Rows describe the goals for the Department DP and the specific learning objectives for the course.

Legend table for the course table. Symbols: ● DPを達成するために特に重要 (Especially important for achieving DP), ○ DPを達成するために重要 (Important for achieving DP), △ DPを達成するために望ましい (Desirable for achieving DP).

Main course table with columns: 科目名 (Subject Name), 必修/選択 (Required/Optional), 履修年次 (Year), 講義/演習 (Lecture/Workshop), 単位数 (Credits), ナンバリング (Numbering), 開講期 (Semester), 知識 (Knowledge), 思考力 (Thinking), 行動力 (Action), 倫理観 (Ethics), 発想力 (Imagination), 構想力 (Conceptualization), 表現力 (Expression).

Main course table with columns: テーマ (Theme), 授業概要 (Lecture Summary), 到達目標 (Learning Objectives). Rows provide detailed descriptions of each course's theme, content, and learning goals.

デザイン基礎演習A			演習		20ART2S26														学校教育の観点でデザインのあり方について、講義や演習を通して考えていきます。美術教育における形や色彩などの造形要素を軸に、発想や構想する力の育成、学校教育におけるデザイン教育の現状と課題などを学び、学校での授業を想定した課題制作を通して、指導方法や評価方法の工夫、授業における技法、材料や用具の特性などの知識などを身に付け、美術教育の実践的な指導力へつなげていきます。	心豊かな生活や生き生きとした社会を創造するため、感性を働かせ、目的、機能、美しさなどの調和を考えて主題を生成し、知的・論理的に、情報をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーションの能力や機能的で美しいものをつくりだす能力などを美術教育において育成する力を身に付ける。		
デザイン基礎演習B			演習		20ART2S26														学校教育の観点でデザインのあり方について、講義や演習を通して考えていきます。美術教育における形や色彩などの造形要素を軸に、発想や構想する力の育成、学校教育におけるデザイン教育の現状と課題などを学び、学校での授業を想定した課題制作を通して、指導方法や評価方法の工夫、授業における技法、材料や用具の特性などの知識などを身に付け、美術教育の実践的な指導力へつなげていきます。	心豊かな生活や生き生きとした社会を創造するため、感性を働かせ、目的、機能、美しさなどの調和を考えて主題を生成し、知的・論理的に、情報をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーションの能力や機能的で美しいものをつくりだす能力などを美術教育において育成する力を身に付ける。		
写真・映像基礎I	選必修	1	演習	2	20ART1S131	前期													写真・映像基礎1	カメラを使用した写真とカメラを使用しない写真を学びながら、光と映像の原理を細く書き写し表現を体感する。	写真制作、映像制作におけるイメージを視覚化するための基本的な知識や技術を身に付けること。	
写真・映像基礎II	選必修	1	演習	2	20ART1S132	前期														写真基礎1	35ミリフィルムカメラによる撮影実習や、暗室を使用した白黒銀塩写真の制作といったプロセスを通して、写真表現の基本的な技術を学ぶ。	イメージを視覚化するための基本的な知識や技術を身に付けることができる。銀塩写真の基本を理解することができる。
写真・映像基礎III	選択	1	演習	2	20ART1S133	前期														写真基礎2	大判カメラによる撮影実習と並行して写真と映像表現との繋がりについて学ぶ。	銀塩写真の基本を理解することができる。「見る」とは何かを意識し、イメージ力と視覚化するための技術力を向上させる。
キャリア基礎演習	必修	1	演習	2	20CAR1S30	前期														修学素養・造形基礎・キャリア基礎	・大学でなぜ学ぶのか、そのために大学で何ができるのかを、学内外の施設と活用方法を通じて知る。 ・授業ドキュメント制作の習慣を身に付ける。 ・学内のオンライン環境を経験し、メールやネットでの連絡・コミュニケーション方法を理解する。 ・美術・工芸を制作するための必要となるデッサン、クロッキーにおいて基礎的な観察と描写を行う。 ・未来設計、お金の話、在学生の先輩の話を通して4年間を俯瞰し自分を取り巻く学習環境のイメージを持つ。	京都の芸術大学で学ぶことの意義を感じ、これらの4年間の大学生活の素養・造形的な基礎を身に付ける。
写真・映像基礎V	選必修	1	演習	2	20ART2S135	後期														映像基礎1	身近な撮影機器と映像編集ソフトを使い、映像制作の基礎を学びます。多様な制作手段とそのプロセスについて課題制作を通して学ぶことで、映像メディアの特質を理解します。	1) 短い映像作品を制作できるようになる。 2) 計画性を持って制作が行えるようになる。
マテリアル・リサーチE	必修	1	演習	2	20ART2S136	後期														【複合的素材研究】	【一年生合同授業】 作品作りにかかせない技法材料について美術工芸学科6コースをジャンル別に分け横断し、それぞれの技法材料について実際に触れながら体系的に学ぶ。それらをマテリアルブックとして一冊にまとめ、以後の作品制作の応用に繋げる。	1) 自コース以外の技法材料について学ぶことで作品制作に多角的な視野を持つことができる。 2) 講義及び実習の中で知り得た情報を適切に整理・保存することができる。
写真・映像基礎VII	選択	1	演習	2	20ART2S137	後期														映像基礎2	映像制作の基本となる、撮影、録音、編集、データ化の基礎を学びます。多様な制作手段とそのプロセスについて課題制作を通して学ぶことで、映像メディアの特質を理解します。	1) 短い映像作品を制作できるようになる。 2) 映像制作に付随する、撮影、録音、編集、データ化の基本をマスターできるようになる。
写真・映像基礎VIII	選択	1	演習	2	20CAR2S138	後期														写真・映像技術の展開	写真・映像撮影技術の基本となる光の捉え方を学び、イメージ力と視覚化するための技術力を高めます。	1) デジタル写真、映像制作における、自然光、人工光でのライティングができるようになる。 2) 撮影からイメージ出力までのプロセスの基本を理解することができる。
写真・映像演習I	選必修	2	演習	2	20THE2S139	前期														写真史・映像史	本授業では、写真及び映像がどのように誕生し、展開し、今日におけるわれわれの思考と感性を定めてきたのかをクロノロジカルに探る。そして私たちが写真、映像というメディアと関わってゆく上で必要なりテラシーを養う。	基礎的な写真史、映像史の知識を身につけた上で、イメージを通して柔軟に思考し、歴史的文脈を踏まえて作品を分析することができる。
写真・映像演習II	選必修	2	演習	2	20ART2S140	前期														写真制作	本格的な写真作品の方法論を学ぶとともに、写真と映像の違いと共通点を探る。	制作意図にそった適切な展示を通して、主体的な表現ができるようになること。
写真・映像演習III	選択	2	演習	2	20ART2S141	前期														映像制作	本格的な映像作品の方法論を学ぶ。撮影方法や編集ソフトの解説だけでなく、様々な媒体に触れながら柔軟な思考力を高める。	課題ごとに制作・発表を行い、映像の撮影・編集技術の向上と、作品制作の開発力を身に付ける。
写真・映像演習IV	選択	2	演習	2	20CAR2S142	前期														デジタル演習	暗室とデジタル環境、双方のワークフローを学ぶことで、フィルム写真とデジタル写真のフィニッシュワークの違いを知り、双方の技術向上を狙う。	1) 銀塩写真でのフィニッシュワークを習得できるようになる。 2) デジタル写真でのフィニッシュワークを習得できるようになる。
写真・映像演習V	選必修	2	演習	2	20ART2S143	後期														フィールドワークと構想	京都をフィールドワークしながら記録と表現について考える。その経験と共に、各自がテーマ設定し、写真・映像を中心とした作品制作を行う。	日常生活にかかわる都市を観察し記録する作業を通じて、自己と作品と世界とのつながりを意識できるようになる。またそれを具体的なかたちで表現できるようになる。
写真・映像演習VI	選必修	2	演習	2	20ART2S144	後期														フィールドワークと制作	「写真・映像/創造基礎VE」に引き続き、京都をフィールドワークしながら記録と表現について考える。その経験と共に、各自がテーマ設定し、写真・映像を中心とした作品制作を行い、成果発表を行う。	日常生活にかかわる都市を観察し記録する作業を通じて、自己と作品と世界とのつながりを意識できるようになる。またそれを具体的なかたちで表現できるようになる。
写真・映像演習VII	選択	2	演習	2	20ART2S145	後期														展示技術	これまで制作した作品を振り返り、テーマや制作技法に相応しい展示方法を学ぶ。	制作意図にそった適切な展示を通して、主体的な表現ができるようになること。
写真・映像演習VIII	選択	2	演習	2	20CAR2S146	後期														デジタル演習	多様なサンプル制作を経て「物質的な写真」を作品として完成する。	データとしての写真・イメージが氾濫する今、映像を物質として手に入れることの意味を探り、作品化する。
写真・映像表現I	選必修	3	演習	2	20CAR3S147	前期														ブック制作とプレゼンテーション1	表現としてのアートブック制作、プレゼン資料としてのポートフォリオ制作を通して、本をつくる一連の流れを理解し、編集とデザインの相互作用について学ぶ。	ポートフォリオ制作はじめ、表現するための武器のひとつとして「本づくり」の技術と考え方を身につける。
写真・映像表現II	選必修	3	演習	2	20CAR3S148	前期														ブック制作とプレゼンテーション2	表現としてのアートブック制作、プレゼン資料としてのポートフォリオ制作を通して、本をつくる一連の流れを理解し、編集とデザインの相互作用について学ぶ。また鑑賞者、プレゼン相手に沿ったブック制作を実践する。	ポートフォリオ制作はじめ、表現するための武器のひとつとして「本づくり」の技術と考え方を身につけ、実際のプレゼンテーションに活用する。
写真・映像表現III	選必修	3	演習	2	20ART3S149	前期														写真実習・映像実習	応用としての撮影技術向上と、場から着想される作品制作を実践する。	1) 高度なスタジオ撮影の技術を習得することができる。 2) 場所から作品を構想、制作することができる。
写真・映像表現V	選必修	3	演習	2	20ART3S150	後期														高度な撮影・編集技術+テーマ構想	写真・映像の高度な撮影・編集技術と、自身のテーマ構想の両面から、1年後の卒業制作を見据えた制作を行う。	学生個々のテーマに即した撮影・編集技術を知り使うことができるようになる。
写真・映像表現VI	選必修	3	演習	2	20ART3S151	後期														テーマ設計と制作	テーマ設定、コンセプト構成、リサーチ、撮影、編集、出力へ至る一連の作業を通して、本格的な作品制作を行う。	テーマ設定からフィニッシュまでの一連の作業を一人で行うことができる。
写真・映像表現VII	選必修	3	演習	2	20ART3S152	後期														展示実践	個々のテーマをベースにした作品制作および展覧会を実施する。	計画的に作品制作と展示準備を進めることができるようになる。
写真・映像表現IX	選択	4	演習	2	20ART3S153	前期														ゼミナール	卒業制作および進路研究。各自の制作計画と作品のプレゼンテーション、ディスカッションを繰り返す、作品制作だけでなく言語的思考も鍛錬する。	4年間の集大成として作品および言語の両面において自分自身を鍛えること。
写真・映像表現X	選択	4	演習	2	20ART3S154	前期														構想設計+インスタレーション研究	卒業制作の完成度を高めるために、展示模型制作やディスカッションを通じて、自作の言語化を含めたソリッドなアウトプットオリティを獲得する。	卒業制作という4年間の集大成の作品を、最後まで探究心と向上心を失わずに仕上げる。
写真・映像表現XII	選択	4	演習	2	20ART3S155	後期														ゼミナール	卒業制作のプレゼンテーションとディスカッションを中心とし、作品制作だけでなく言語的思考も鍛錬する。	4年間の集大成として作品および言語の両面において自分自身をさらに鍛えること。
卒業研究・制作E	必修	4	演習	2	20ART3S156	後期														卒業制作仕上げ	今まで積み重ねてきた表現をもとに各自が卒業制作を完成させると同時に、共同で展覧会の準備を行う。	自分の考えが表現できるような実践的な制作と展示を行うことができる。 協働して卒業制作展を作り上げることができる。